学校番号	３０２９

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	書Ⅱ　（光村書店）書Ⅱ　７０４						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書道Ⅱは書道Ⅰの上に立っての学習です。書の伝統・文化としての理解を深めるために、表現と鑑賞（特に古筆、名筆）の関連を有機的に図りながら、意欲的に取り組みましょう。

２　学習の到達目標

・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	王羲之の行書、仮名の高野切第１、第２、第３等の美を体験し、古典の知識を拡充している。	書かれた文字と表現の構想や技法が混然一体となって自己の人間性を表現している。古筆や古典、名筆といわれる作品を鑑賞し、制作の充実に反映している。	芸術や自然などの美に触れたときに起こる効果的な表現をしようという意欲や態度を身につけようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	行書を学ぶ	・2年次は1年生での活動を踏まえたうえで、まず道具に慣れることから始める。特に行書と仮名の表現に取り組ませる。 ・行書の古典 王羲之の書と伝えられる蘭亭叙の張金界奴本を学ぶ。 ・マスターした所まで全部、半切におさめ仕上げる。 ・ハガキ制作 篆刻・印の作成・墨色の工夫 ・墨絵による立体表現方法を学ぶ。	a: 自他の作品のよさや美しさを感じ取り、作品について理解を深めている。 b: 行書の線の表情と空間の取り方から美の法則を考えようとしている。行書・仮名・篆刻の技法を理解して作品を仕上げている。 c: 行書と仮名の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。	提出作品	提出作品	観察
	仮名を学ぶ	・仮名の古筆を中心に製作 (高野切第1・第3種、寸松庵色紙、関戸本古今集等)料紙にて仕上げる。	a: 自他の作品のよさや美しさを感じ取り、作品について理解を深めている。 b: 仮名の線の表情と空間の取り方から美の法則を考えようとしている。仮名の技法を理解して作品を仕上げている。 c: 仮名の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。	提出作品	提出作品	観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度